

5-7. 維持管理目標

台峯緑地の自然環境は、谷戸という比較的閉鎖的な環境の中に人間との関わりの中で維持されてきた里山の二次的な自然が大部分を占め、また人の手による流水・止水環境と湿地環境の基本が形成される中で現在の姿が形作られたもので、この豊かで多様な自然は人による継続的な手入れが無くては維持できないものである。

この台峯緑地の自然が、現在の多様な生き物達の生息環境であり続けることができるか、また緑豊かで明るく健全な樹林地としての里山の景観を保つことができるかは、今後の維持管理にかかっているといても過言ではないため、維持管理の目的と方針、また維持管理の分担についての方向性を定める。

1) 維持管理の目的

台峯緑地の維持管理は基本理念の「台峯緑地の優れた自然環境を守り後世に伝える」ために実施することにより、台峯緑地の維持管理の目的を台峯緑地の自然環境の保護・保全の課題に対して以下のように設定する。

■ 自然林、二次林、貴重な群落などからなる多様な樹林地の保全

台峯緑地の生態系の健全度、多様性の基本となる植生環境を保全していくため、林床部でのアズマネザサの繁殖による種多様度の低下による遷移の阻害や環境悪化、放置された薪炭林や植林地での生育状態、林床環境の悪化、貴重なハンノキ群落の育成などの課題に対して、各群落の遷移の段階や方向性に応じた誘導を基本に、林床管理、立木密度の管理等の整備により樹林の健全度を保ち、大径木の育成によるフクロウの繁殖環境、昆虫類等の餌場環境の改善、水環境のコントロールによるハンノキ群落の維持育成等の維持管理を行う。

■ 湧水、水路、湿地、池など多様な水環境の保全

湧水、水路、湿地、池など台峯緑地の多様な水環境は、多様な湿生植物が繁茂し、貴重種を含む多様な動植物の生育環境となり景観的にも特徴的で台峯緑地を特徴づけている最も重要な要素とも言えるものである。現在水量が低下している様子はないが、素掘りの用水路は一部で洗掘が進んでいたり、アズマネザサ等に覆われたり、護岸が不安定で一部水路が埋まりそうな場所もある。また湿地は植物遺体の堆積による陸地化の進行も見られるため、これら水環境、湿地環境を保全していくための維持管理を行う。

■ 荒地、草地、耕作放棄地などの人的関与が必要な群落の適切な目標設定による誘導

台峯緑地にはかつて水田や畑地であった場所が多く、耕作放棄後に荒れて自然の遷移が阻害されている場所やクズの繁殖による周辺樹林地への悪影響が懸念される場所が見られる。また、現在耕作の続けられている農地についても都市公園等として公有地化した後の土地利用が課題となるため、動物の生育基盤等としての評価、周辺樹林環境との関係や市民利用動線等の台峯緑地における立地条件を踏まえて、樹林に遷移させる場所、耕作を続ける場所、現在の環境状態を存置する等場所毎の適性と必要性に合わせた土地利用の目標設定を行い、それぞれの目標への誘導や現状の植生等の状況を保全するための維持管理を行う。

2) 維持管理の方針

■ 計画～実施～成果～調査のサイクルの維持管理

- 維持管理は、計画から維持管理の実施、その成果、成果に対する継続的なモニタリング調査、その調査結果を維持管理手法や計画に反映する循環型の流れで行う。
- モニタリング調査を行い、反映する試行錯誤を繰り返すことで、台峯緑地の自然環境により適合した維持管理手法を蓄積することができ、自然環境もより良好な状態に保つことができる。
- 特に人が入ることによる環境圧の影響など、自然環境の保全と利用のバランスを維持するためには、継続したモニタリング調査が欠かせない。台峯緑地の維持管理は継続調査と平衡して行うことを前提とする。

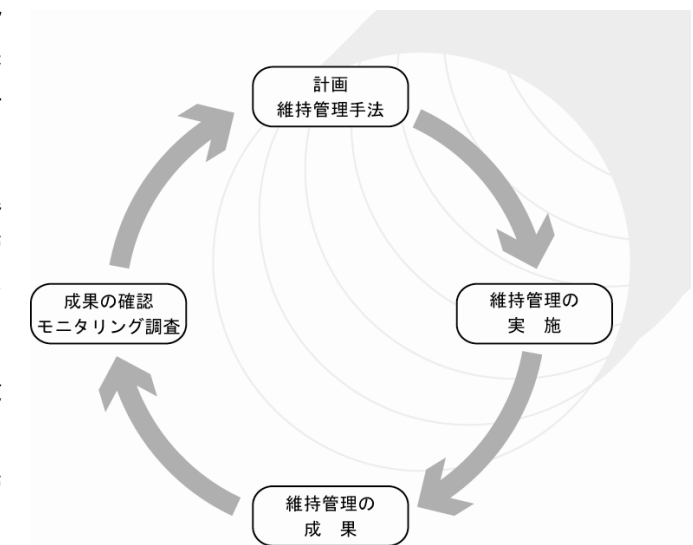


図5-28
計画～実施～成果～調査サイクルの維持管理イメージ図

■ 優先順位を決めて、段階的に拡大させる維持管理

- 自然環境の荒廃度など緊急性を勘案し、優先順位を定めながら段階的な維持管理を行う。大面積の維持管理による生態系へのダメージを避ける意味からも、段階的に規模を限った維持管理を行うことが重要である。

■ 緑地内での資源のリサイクルができる維持管理

- 維持管理によって発生する発生材はできるだけ緑地内での有効活用を図り、緑地内での資源の循環を図るようにする。

3) 維持管理の分担

■ 市民参画による維持管理と環境学習

台峯緑地の維持管理は里山の自然とふれあい、理解する絶好の機会である。台峯緑地は、現在まで多くの市民によって自主的な維持管理が行われ、貴重な緑地が残されてきた。諸団体の活動や市民の環境への関心の高まりに答えるためにも、緑地の維持管理の方針策定は市民との協働で行う。

■ 専門家を交えた維持管理

維持管理の品質の確保、また環境学習機能を確保するためには、自然環境に詳しい専門家をまじえて展開することが必要である。

■ 市民と行政との役割分担、責任分担を明確にする

維持管理における市民と行政の責任分担、作業の危険性をよく勘案し、適正な役割分担を明確にすることが重要である。